

福利厚生プログラム ～農業体験導入の御案内～



株式会社 アルファポイント

はじめに

近年、企業においては、グローバル化、IT化、専門化の進展に加えて、長時間労働、厳しい成果主義などにより、部門間、世代間のコミュニケーション不足、チームワーク力・団結力の低下、人材育成の停滞、社員のメンタルヘルス対策や健康管理など様々な課題があるのではないのでしょうか。

一方、食を取り巻く環境は、世帯構成人数の減少、食の外部化・グローバル化、食に関する情報の氾濫など、大きく変化しています。これに伴い、国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事などが生じているほか、日常生活では食の生産現場を意識することが難しくなっています。

このような状況の下、社会貢献活動や社員研修として農業体験に取り組んだ企業において、自然の恩恵や食に関わる人々の多様な活動への理解を深めるとともに、立場を超えた共同作業によるコミュニケーション能力向上やチームワーク力・団結力の強化、管理者研修でのリーダーシップの向上、心身のリラックスなどの健康管理面での効果、自社取扱製品の売上げ向上、離職率の低下など、企業が農業体験の有用性を見出し、活動を継続する事例が見られます。

より多くの企業が、社会貢献だけでなく研修や福利厚生など幅広い目的での農業体験を利活用していただけるよう、弊社の農業体験プログラムをご提案いたします。農業体験を通して、企業活動の活性化に役立てていただければ幸いです。

株式会社アルファポイント

1 . 農業に対する私たちの思い

太陽の下で、土に触れること、農作物を栽培すること。自然と共存した生活。

それはたぶん人類が最初に与えられた「仕事」。農業は人間の命を支える大切な仕事です。

自給自足力を兼ね備えた農業という仕事の従事していれば、大切な人の命を守ることができる。

大切な人を守っていくことができる、自分の心と身体を元気にする、

そして環境にも優しい・・・そんな可能性を秘めている農業という舞台で、

もっと多くの方に感じてもらいたいという思いから、体験農園に取り組んでいます。

もっと、多くの方が土に触れることで、農業という産業の可能性が広がっていくと信じています。

2. 農業体験が企業に取り入れられる背景

なぜ今農業体験なのか？

近年、農業体験活動を社員研修や福利厚生プログラムに取り入れる企業が増えています。

農業体験とは、農家等の生産者の指導のもと、畑や田んぼで、農作物の生産や収穫作業等、一連の作業を共同で行う体験活動のことをいいます。

実体験と社会参画とを伴う体験活動であり、社員やその家族が食の生産現場である自然のなかで実際に身体を動かし、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解を深める場にもなっています。

さらに参加者間の一体感や連帯感の形成、社会とのつながりを実感でき、新たな気づきを効果的に得られる場として注目を集めています。

農業者が生産の場において、農業体験の機会を提供する取組が行われています。

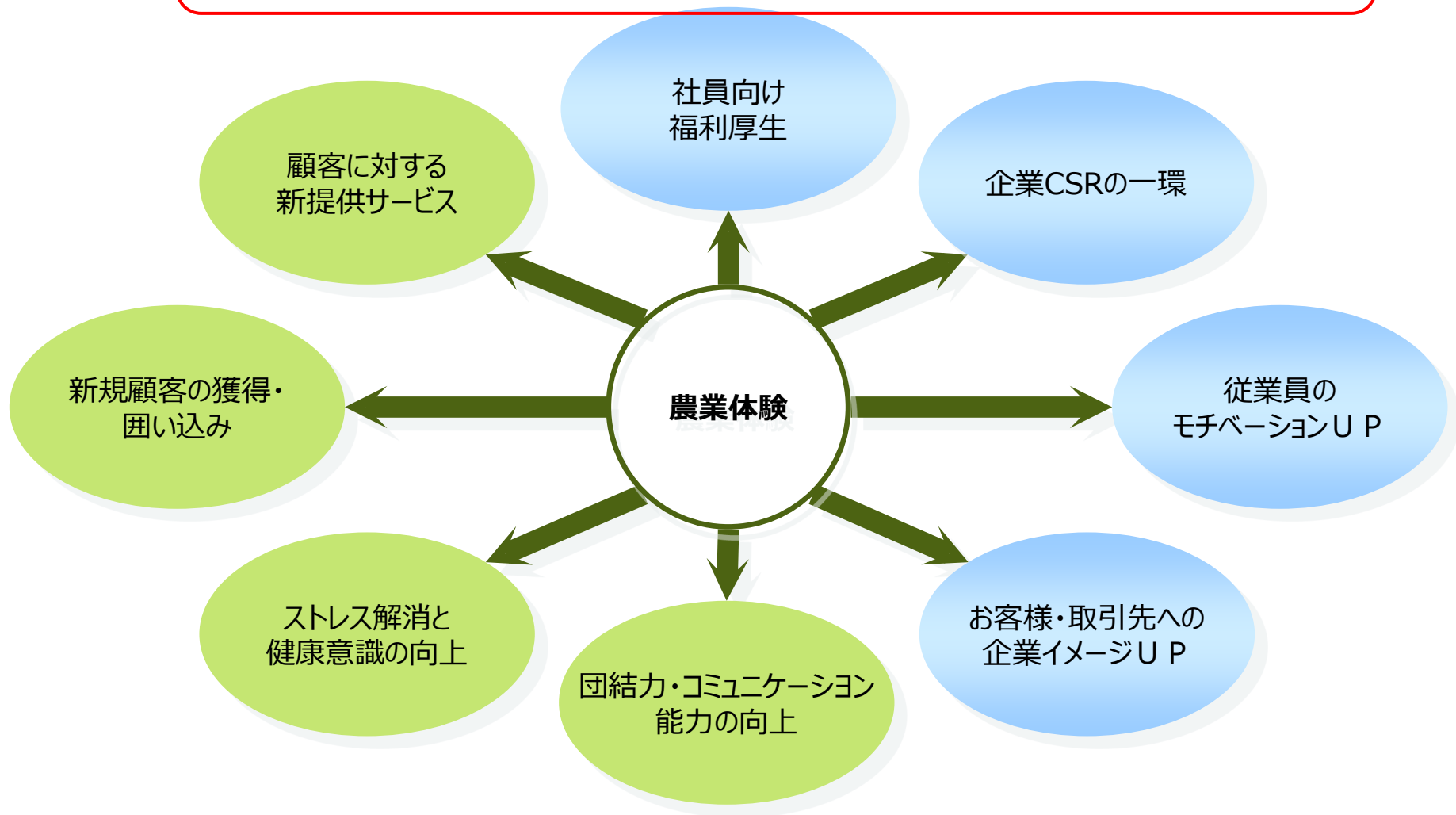
このような体験型・社会参画型の活動には、ボランティア等様々なものがあります。

それではなぜ、農業体験が注目されているのでしょうか。

農業体験は、春は種植え、秋は収穫等、季節に応じて実施する内容がある程度決まっているため、定期的なスケジュールを組む必要がある社員研修や福利厚生に合っているといえます。

加えて、「社員をいかに育成していくか」を重視する企業にとって、農業体験から得られる効果に対する期待が高まってきているのです。

食の生産・安全性など食育的関心を高め



農業体験を行う意義

企業が農業体験を実施する意義は、社員研修や福利厚生プログラムとして採用している企業の担当者の多くは、CSR的観点だけでなく、社員が植えなど農業を通じて身につけたものが企業側の課題解決につながり、それが継続して行っている理由だと答えます。

夕方までに植えを終わらせなければならない等

明確な目的に全員で取り組むことによるコミュニケーション能力の向上から、

チームワークの醸成、チームを引っ張っていくリーダーの誕生等、

人材育成という企業の課題を解決する効果が期待されているのです。

※CSR（Corporate Social Responsibilityの略称、企業の社会的責任）とは

企業が利益のみを追求するのではなく、社会的責任を果たし、社会とともに発展していくための活動です。

企業にとって農業体験を実施する意義の変化

これまでは・・・→

- CSR（企業の社会的責任を果たす）
- CS（顧客満足）の向上

ポイント！



- CSR（企業の社会的責任を果たす）
- CS（顧客満足）の向上
- +
- チームワーク力の強化
- 社内コミュニケーション（再）構築
- リーダーの育成 等

3

農業体験の位置づけ

社員研修の一環として

社員研修の一環として農業体験が行われる場合、研修の対象を若年層、特に新入社員としているものが多くみられます。

社会人基礎力である「仕事の段取り」「自律的に取り組む姿勢」などを習得できるプログラムになっているのが特徴です。社員の皆さんは「日没までに作物をすべて収穫するには？」といった課題に取り組むことになります。職場の仲間と力を合わせて課題に挑戦することで団結力やコミュニケーション能力を磨き、自己開示力・考察力やセルフコントロール力を身につけることが期待されています。

このように農業体験は、プレッシャーに負けない強靱な精神力と
しなやかな心を育める、新しい時代に対応した研修プログラムとして
注目されています。

また、農業体験はリーダーシップ・管理職研修や、
役職を超えた体験研修等に役立つものとしても採用されています。



CSR・CSVの一環として

近年、多くの企業が「環境報告書」を「CSR報告書」へと改題しています。

これは、企業が環境に関する法令（環境保護法等）の遵守だけではなく、企業運営を長期にわたって維持するためには社会的責任（顧客、取引先、株主、地域社会、従業員などとの関係）を果たすことが重要だという認識を深めてきた表れでもあります。

この社会的責任を果たす一環として、農山漁村での支援活動が行われています。

福利厚生メニューとして

社員のメンタルヘルスケア、社員や家族の間の交流、心と体の健康管理の場として、農業体験を福利厚生のメニューに採用する企業は増加傾向にあります。

通称「ストレスチェック義務化法」が施行されるため、この傾向はさらに強まることと考えられています。

また、定年退職者の再就職先として、体験施設の整備・管理が受け皿となるケースもあります。

社員の在職中から退職後までトータルで関係を構築しようとする企業の姿勢が増えています。

※ストレスチェック義務化法案とは、「労働安全衛生法」（安衛法）の一部を改正した法案のことです。
2014年3月13日に国会に提出され、同6月19日に可決されました。6月25日には「改正労働安全衛生法」として公布されており、
2015年12月までに施行の予定です。改正安衛法が施行されると、社員数50人以上の企業では年1回のストレスチェックの実施が義務付けられます。

4

農業体験を通じて想定される効果

弊社が展開する農業事業の特色

弊社の体験プログラムは、

- ★プロ農家から野菜づくりのノウハウを学ぶカルチャースクールです。
- ★プロの指導により野菜づくりが上達します。
- ★初心者から経験者まで安心して高品質な野菜づくりができます。
- ★各種の野菜を栽培します。中にはお米作りができる農園もあります。
- ★収穫した野菜等はすべて持ち帰ることができます。「自ら作った」農産物が得られます。
- ★種や苗、肥料や道具などすべて弊社が用意します。
- ★子どもに野菜づくりを経験させることができます。家族に新鮮で安全な野菜を食べてもらえます。
- ★共通の趣味を持った参加者同士でコミュニティができます。

農作業メニュー

- ・耕作放棄地の開墾作業
- ・田植え、稲刈り
- ・野菜などの作付、収穫作業
- ・草刈りなど圃場の整備 等



- ・身体を動かし、汗を流すことで得られるリアルな体験
- ・段取りや効率性などを考え、実行に移すことで得られる自律性
- ・ものをつくることの大変さを理解し、やり遂げた達成感を得る
- ・人と共同して作業することでチームワークの重要性を理解

生産者との交流

- ・農業体験の指導
- ・農業生産者の工夫
- ・地元の人たちとの時間の共有
- ・地産地消 等



- ・人の話を聞き、相手の気持ちになってものを考える力
- ・世代を越えた価値観の異なる人たちとの貴重な接点
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・食についての正しい知識を習得し、感謝の気持ちを深める

5

弊社が展開する農業事業では

過去の実績を生かした農業プログラム

弊社は近年、毎年、沖縄県を除いた全国約50か所で、大豆の農業体験を実施してきました。

単に、農業や農産物（大豆）のを知るにとどまらず、家族との交流、同体験をした仲間とのコミュニケーション、食育への関心など多くの素晴らしい副産物が得られました。

そこで弊社は、これらのノウハウを活かし、企業・団体向けに、とても有意義な福利厚生を社員・構成員の皆様に提供できるプログラムを立案致しました。

1年1年の栽培を通して植物・自然から学ぶことや新しいチャレンジによって、自分自身も成長させられていると感じることができます。

そして何よりも、心地良いです。

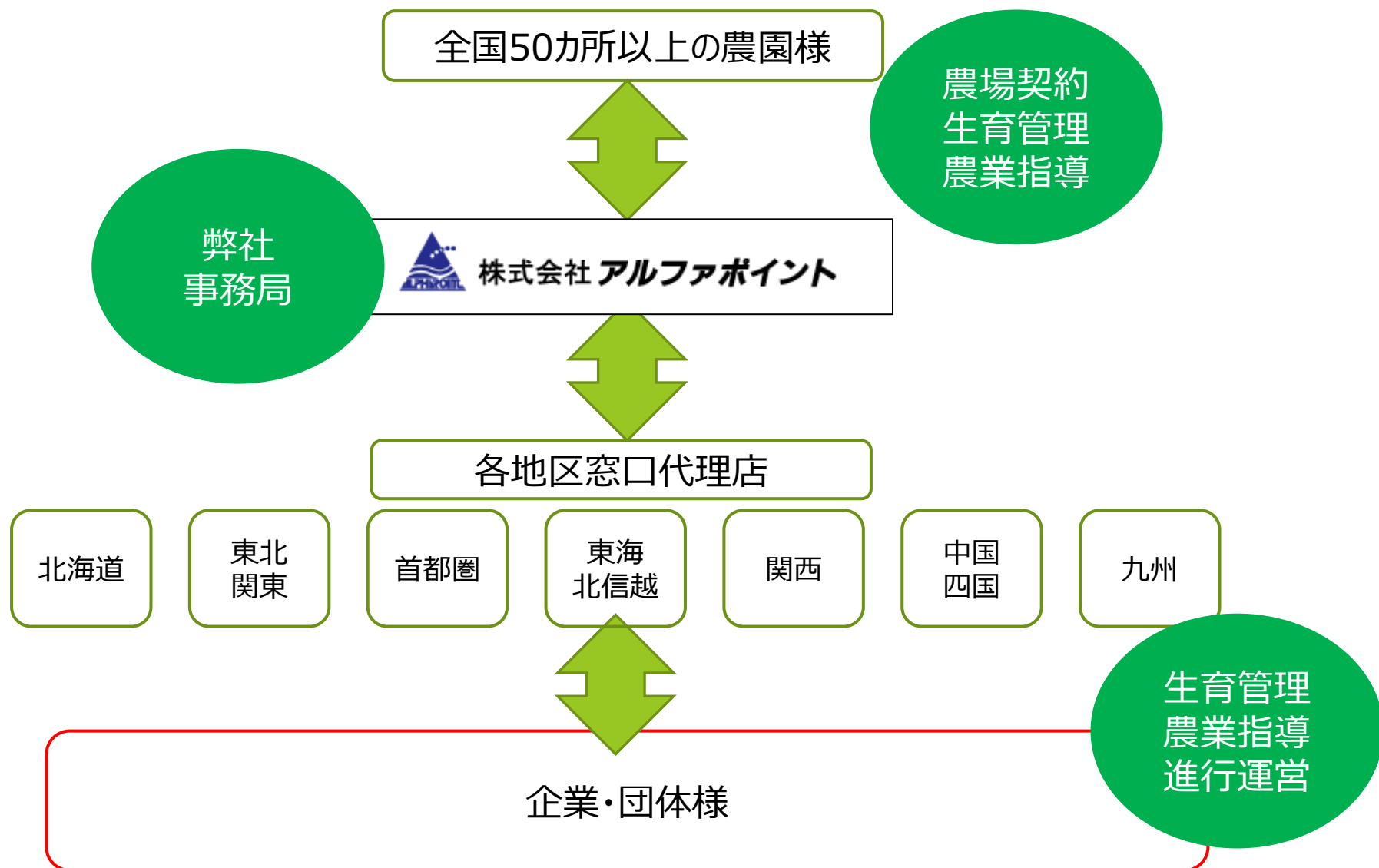
100%有機無農薬の自然力に恵まれた環境で野菜を栽培できることは、とても貴重な体験です。

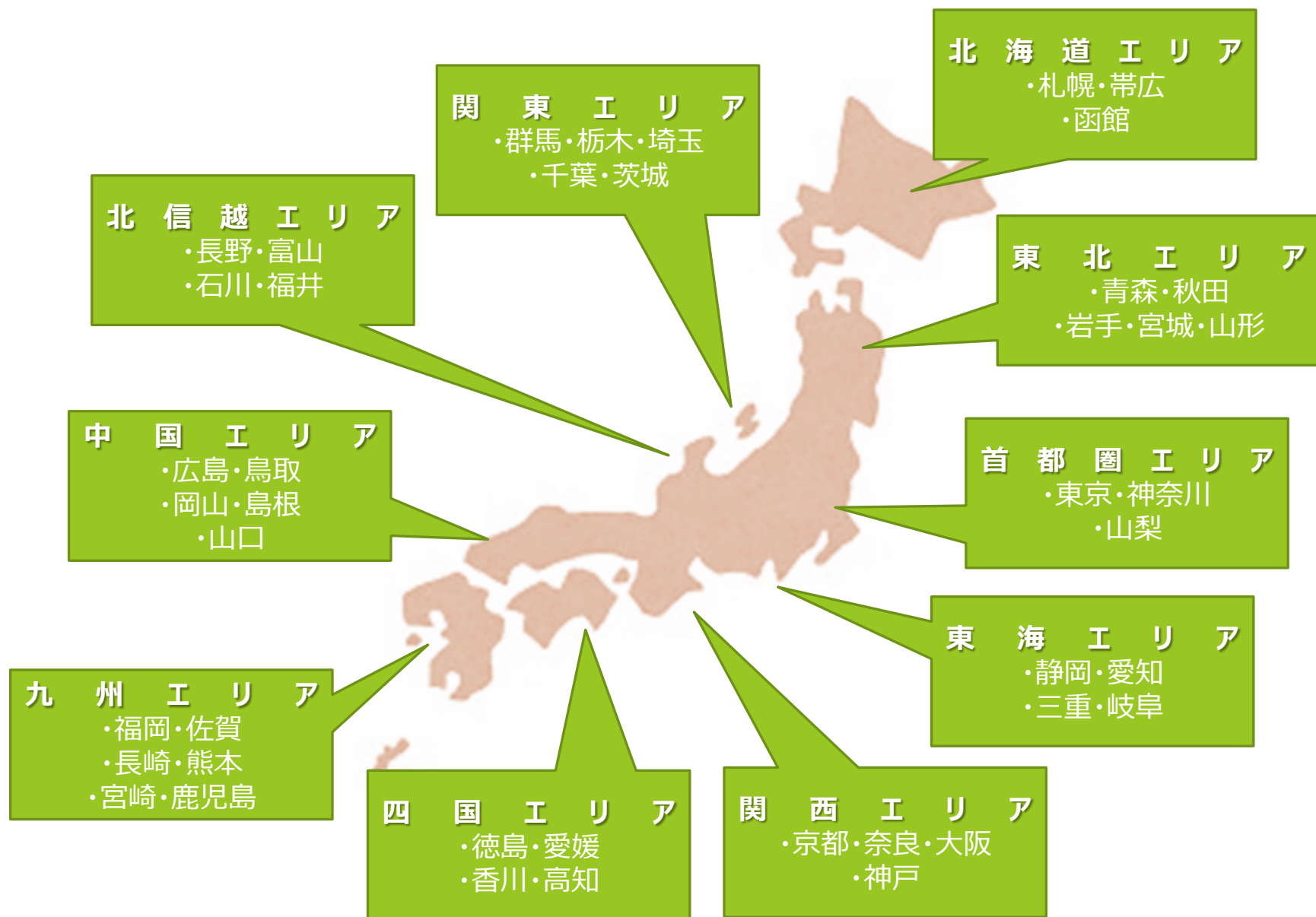
皆様それぞれの好みやペースに合わせ、無理の無い作業計画で楽しんでもらえるように、お手伝いさせていただきます。

地域の方々や会社を超えたイベントなどを行う交流の場、作った野菜を使っの社会貢献の場など、畑をプラットフォームとして様々な活動を広げることが可能です。

6

弊社が展開する農業フォロー体制





8 . 農業体験の一日プログラムの想定スケジュール

集合

- ・集合場所にスタッフが待機。
- ・集まって来た参加者を名簿にて確認。
- ・遅刻者などへは電話連絡をして状況を確認。

開会式～準備

- ・主催者挨拶・スタッフ紹介
- ・一日の流れや持ち物確認、注意事項などを説明。

種・苗植え・収穫体験

- ・指導スタッフ紹介
- ・種・苗植え（収穫）のやり方を見本を見せながら説明後、体験開始。
- ・参加者実施中、スタッフが巡回しながら指導する。
- ・最後に記念撮影を実施。

昼食～フリータイム

- ・午後の流れの説明。
- ・御弁当を配布または各自昼食をとっていただく。

生産者のお話し

- ・現地の農家さんからの農業についてお話をしてもらいます。

お楽しみ抽選会

- ・コミュニケーションタイム

閉会式～解散

- ・今後の説明や次回開催の説明など
- ・閉会式

農業体験プラン（参加人数 80名想定）

1 回目のイベント

種植え(苗植え)体験



★種植え・苗植え 体験（約 3 時間）

現地集合 10 : 00



畝づくり体験



種又は苗植え



休憩



昼食タイム



解散 13 : 00

約40～60分程度

畑の畝づくりから、
マルチを敷き、
穴をあけて種植を体験。

2 回目のイベント

収穫体験



★収穫体験（約 4 時間）

現地集合 9 : 00



収穫体験



休憩



昼食タイム

(収穫物の試食)



解散 13 : 00

約60～90分程度

10. 農業体験実施日について

地域や生産する農作物によりスケジュールの違いを体験

農業体験を進めて行く過程で、

農業体験シーズンは春からはじまり、梅雨のシーズンを乗り越え、真夏の収穫体験が始まります。

早いもので、種・苗植えから1カ月程度で収穫体験ができる農作物や3か月・4か月かかる農作物があります。

地域の気候や気温などにより農業体験を行う時期が異なります。

シーン	時期	参考
種植え 苗植え	4月下旬から7月中旬	台風が多い時期なので、天候の問題が予想される時期になります。
収穫＆試食会 葉物類	7月初旬から11月初旬	栽培する農作物により収穫時期は異なります。 農作物により収穫期間が短いものなどがあります。 状況を見ながらスケジュールを組み収穫します。
芋類や秋野菜	11月中旬から翌1月中旬	寒さが増す時期になるので、雨天時の体験が困難になるため 季節感を感じ収穫してもらいます。

農作物の・・・収穫時期（一例）

月別	収穫物
7月に収穫する野菜	トウモロコシ・枝豆・じゃがいも
8月に収穫する野菜	トウモロコシ・枝豆・ナス
9月に収穫する野菜	トウモロコシ・枝豆・ナス
10月に収穫する野菜	枝豆・さつまいも

11. 実施する畑に企業名や団体名を入り看板やプレート

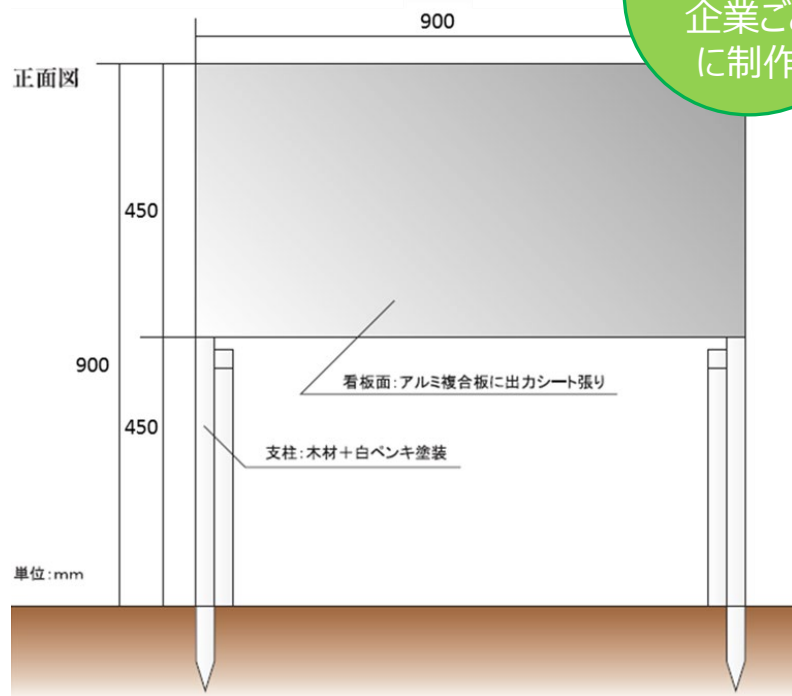
農業体験を導入したシンボル看板の作成

社員や参加される方個人の植えた場所がわかる目印

屋外用組立看板

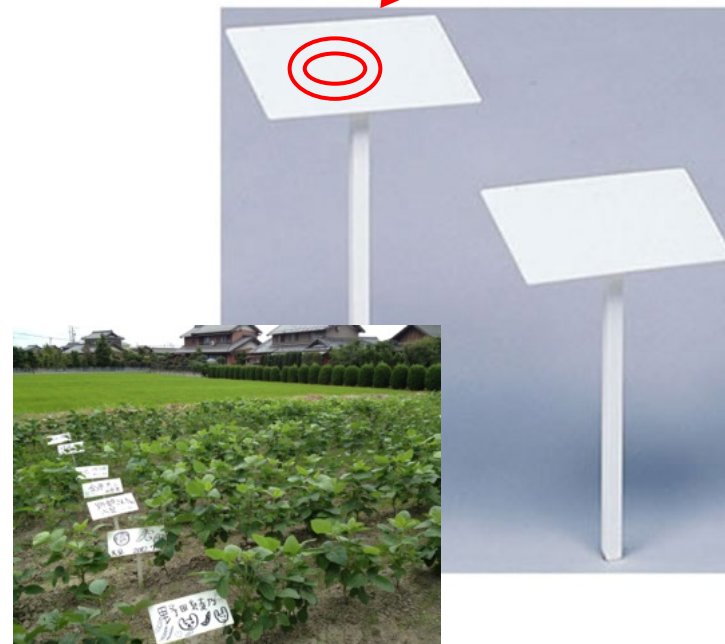


デザイン
は
企業ごと
に制作



ネームプレート

こちらの面に
マジックで参加され方の
名前を記入していただきます。



12. 農業体験の参考イメージ（種・苗植え・収穫体験）

○時間： 種植え体験/10:00～11:00 記念撮影/11:45～ を想定

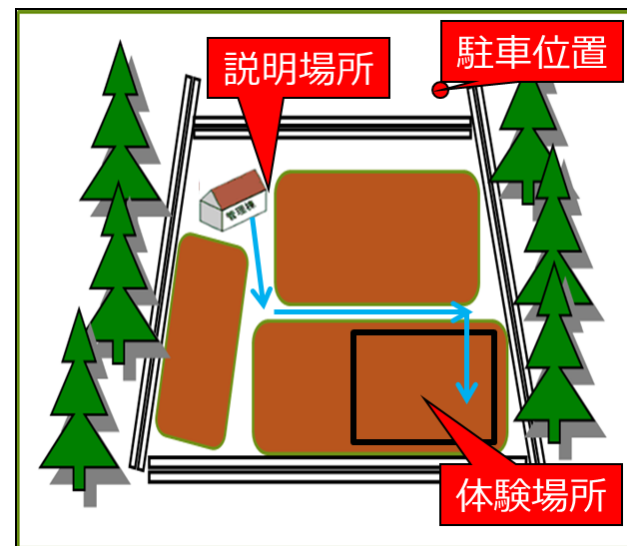
＜農業体験の流れ＞

- ①スタッフ紹介 ※説明場所にて
 - ・弊社のスタッフ紹介、企業様代表挨拶
 - ・農園のスタッフ紹介
 - ・トイレの場所など説明
 - ・他の畑に無断で入らないこと
- ②体験する畑へ移動
 - ・農園指導体験指導者から説明
 - ※畑到着後、すぐに畑へ入らないように注意
- ③苗植え方法説明
 - ・農園指導体験指導者から説明
 - ※体験の手順、注意事項などを説明（場所は右図参照）
- ④農業体験
 - ・説明後、それぞれの場所へ移動し、体験を実施
 - ※農園指導体験指導者が畑を巡回いただき、アドバイスなどを実施
 - ※運営スタッフにて参加者をフォロー（記録画像撮影）
- ⑤記念撮影
 - ・畑の一箇所に集合いただき、記念撮影を実施。

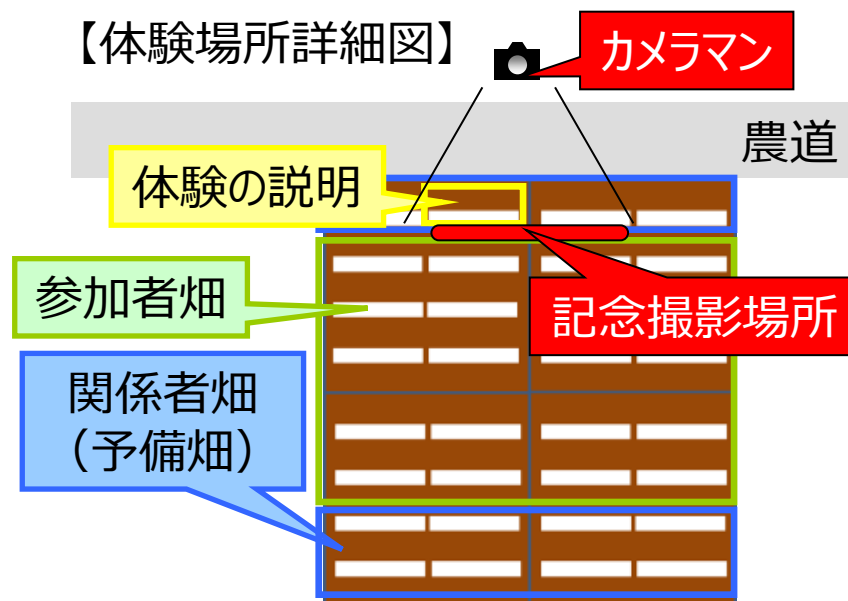
※降雨時の対応に関して

作業途中に雨が降ってきたり、雷が鳴るなど、作業継続が困難な場合は一時的に避難し、様子を見て再開・中止などを判断する。

【農園全体図】



【体験場所詳細図】



13. 農業体験に関連した体験（例）

農業体験で収穫した食材を使った関連体験



収穫した大豆を使った
お豆腐作り体験



獲れたて野菜をつかった
料理作り体験



地元でとれたお米で餅つき
体験



地元の講師による、
農家ならではの料理作り体験

14. 農業体験を希望の内容で実施が可能

各コースの御案内

① 種植え体験と収穫体験（全2回の農業体験コース）※実技指導込

畑や田んぼで、種付けの体験（1回目）と農作物の収穫（2回目）全2回の体験をしていただくプラン
農家の方から、指導を受けながら、自分で植えて・自分で収穫します。
生育途中の管理は弊社が行います。

② 収穫体験のみ楽しむ（全1回の農業体験コース）※実技指導込

畑や田んぼを借り上げますが、実際の作業は収穫体験のみ行うプラン
畑に自分たちの企業名や団体名を付けて生育していくプランになります。
取引先やグループが会社の社員を招いて体験などを行うことも可能です。

③ 畑の準備・種植え・管理・収穫体験（農業体験コース）※実技指導込

農作業を一から行い、収穫まで行うプランになります。
生育中のサポートを受けながら、定期的に畑の様子を見ていただき、自ら率先して体験に取り組んでいただきます。
企業全体で取り組むことにより、様々な発見があります。

④ 自社の畑を取得して、生産から収穫までを一括で依頼し、収穫した農作物だけを受け取るコース

全て、弊社が行います。
育てた野菜やお米にブランド名をつけ、オリジナルの農作物を持つことができます。

15. 費用の考え方

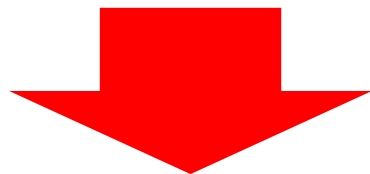
農業体験を社員、およびそのご家族で実施した場合

★福利厚生費として原則全額が費用処理できます。

★御社従業員の労働意欲向上が期待できます。

★御社従業員の愛社精神養成に繋がります。

★従業員のモチベーション向上に役立ちます。



そして、
福利厚生制度の充実は「優秀な人材確保」に繋がります。

16. 弊社がご提案できる様々なプラン

農業体験に関連するその他・・

- ★ 農作業体験のみならず、収穫した野菜を使用した調理体験など
- ★ 移動のためのバスチャーター・添乗（全国対応）
- ★ サッカー教室
- ★ 温泉入浴
- ★ カブトムシ探し
- ★ 店舗即売体験
- ★ 水耕栽培の見学
- ★ トラクター畑体験
- ★ 野鳥観察
- ★ 動物園見学
- ★ 利用施設での遊園
- ★ 流しそうめん
- ★ スイカ割体験
- ★ カキ氷
- ★ BBQ
- ★ お菓子づくり体験
- ★ そば打ち体験
- ★ 餅つき体験

農業体験以外に、様々なプランを組み合わせることが可能。

- ・純粹に農業体験を楽しむプラン
- ・バスをチャーターして近隣施設を回りながら楽しむプラン
- ・自分で育てた作物をその場で調理して楽しむプラン
- ・温泉施設などをまわり、日帰りツアー的な楽しみ方をするプラン
- ・BBQなどを取り入れた楽しい体験プラン・・等

17. 事例のご紹介

自動車ディーラー様

1. 営業拠点が点在するため、社員のコミュニケーション機会の創出のために、社員家族で農業体験イベントを実施。
2. 既納お客様のアフターフォローイベントとして、会費制(参加費)で募集し、他にはないイベントとして好評を博している

IT関連企業様

1. 通常業務では社員間のコミュニケーションが不足するため、社員のコミュニケーション機会の創出のために、社員およびそのご家族で農業体験イベントを実施。

18. 費用

30家族120名参加の場合

800.000円（消費税は別途）

- ・種植え体験・収穫体験 各 1 回
- ・期間中の圃場管理（草取り・水やり）
- ・農業指導 含む

※上記の中には

- ・参加者手袋、雨具、長靴、帽子 など
- ・実施場所までの移動費
- ・調理体験・昼食などのオプション

……含まれておりません。